

令和5年5月22日

○おだ幸子委員

公明党のおだでございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。私からは、畜産業物価高騰対応費補助についてお伺いをさせていただきたいと思っております。

現在、飼料価格の高騰が続いておりまして、収束の気配も見えない中、畜産農家の経費削減の努力も追いついておらず、畜産経営が圧迫されていると伺っております。このような状況下では、飼料価格の高騰分を販売価格に転嫁することによって、畜産農家だけでなく社会全体で負担して、畜産物のサプライチェーンを支えていくことも必要なのではないかと考えます。

そこで、飼料価格の高騰に関連いたしまして、畜産物の価格やその対応策について、何点かお伺いいたします。まず、1点目でございますが、現在、畜産物の販売価格の動向はどうなっているのでしょうか。

○畜産課長

農林水産省に農業物価統計調査というものがございまして、令和2年の平均を100とした場合、令和5年2月の価格につきましては、生乳においては103.3、肉用牛関係については106.7、豚肉関係については104.0、鶏卵につきましては190.4となっております。なお、鶏卵につきましては、高病原性鳥インフルエンザによる供給不足、この影響だと思っておりますし、ほかについても、コロナ禍の揺り戻し、そんなことも原因であると考えてございまして、総じて上昇はしてございますが、飼料価格の高騰を反映したものではないというふうに考えてございます。

○おだ幸子委員

今、データをお伺いしますと、卵は190%ということで、それ以外は約100%、一桁台ということで、ほぼ抑えられている状況。ただ、そうは言いながら、一方で、飼料価格の高騰というのが非常に大きなものかと思うんですが、その生産費の増加分を畜産物の販売価格に転嫁することというのはできないのでしょうか。

○畜産課長

畜産物は、加工、流通業から小売業を通じて消費者に販売をされるということで、その需給を見ますと、消費の面では、学校給食のない夏休み期間は減少するとか、クリスマスや正月の年末年始の間は増加する、そんなような波もございまして。一方で、生産面では、生き物であるために、季節によって、その需要に合わせてやるということがなかなか難しいということでございまして。

そんな中で、販売価格は、こうした需給バランスという影響を強く受けますので、価格高騰分を販売価格に転嫁させると、この需給バランスが崩れて消費者離れにつながるリスクがあるということから、生産費の増加分を単純に販売価格に転嫁するということが難しいというふうに考えています。

○おだ幸子委員

なかなか販売価格に転嫁することは難しいということは理解いたしました。

一方で、対策、販売価格への転嫁についての対策は取られているんでしょうか。

か。

○畜産課長

販売価格の転嫁につきましては、生産、流通、消費の3者が共通の認識を持って理解醸成を図ることが大切だと考えています。農林水産省で、これまでやってこなかったんですけれども、この令和5年4月28日に、第1回畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備推進会議というものを立ち上げてございます。この中で、畜産物を将来にわたり安定供給するために、各業界の代表者と生産コスト等を適正に価格へ反映することを可能にするための仕組みについて、今、検討されているというふうに承知しています。

○おだ幸子委員

環境整備推進会議で生産コスト等を適正な価格で反映することが可能な仕組みづくりを検討しているということで、県とされましても、こうした動きを注視して、必要な対策を検討していただきたいと考えます。

続きまして、4点目でございますが、飼料価格が高騰し続けている中で、輸入飼料への依存から転換するための体質の強化が必要だと考えますが、その1つとして、エコフィードの活動があると思いますが、県としてはどのように考えておられるのでしょうか。

○畜産課長

本県は、人口に比例して非常に多くの食品関連事業者が県内にございます。そうしたことから、エコフィードの原材料となる食品残渣等は多くあると考えています。しかしながら、食品関連事業者への調査からは、定時、定量発生して、飼料、餌として活用しやすい材料というものは既に飼料製造業者等により、県内外でもう既に餌として活用されている。

一方で、まだ、飼料として活用されていない材料があるものの、利用するには手間を要するということが多くなってしまっているのが実情であります。

また、畜産農家の調査では、さらにエコフィードの利用を増やしたいという声がある一方で、安定した量と品質への要求が根強くございます。そうしたことから、経営全体を見て、手間をかけても積極的にエコフィードを活用しようとする畜産農家と、従来と変わらず配合飼料を中心に利用する畜産農家と二極化するのではないかと考えられていまして、この隔たりを縮めるということが課題ということで認識をしています。

○おだ幸子委員

エコフィードの活用に関しても、まだまだ問題があるということは理解をいたしました。とは言いながら、やはり飼料価格の高騰の現状を考えますと、今後、エコフィードの活用というのは、やはり取り組んでいかななくてはならない問題かなと考えます。その問題点の解消ですとか、それらについて、どのように取り組んでいかれるのか、お考えをお伺いしたいと思います。

○畜産課長

県としましては、エコフィードとして新たに使えるような材料につきましては、成分分析等を実施することにより、エコフィードの活用をこれを後押しするということとともに、エコフィード製造事業者やエコフィードを経営の中で有益に利用している先駆的な畜産農家に牽引していただくことによって、エコフィ

ードの活用の裾野を広げていくように仕向けていくというような考えでございます。

それに向けて、令和5年度当初予算において、エコフィード調整に必要な機械等の整備に対する支援、あるいは、新たに加工した飼料原料について、飼料化のために飼料分析や飼料設計、給与指導への経費を支援するという事としております。

加えまして、食品関連事業者と畜産農家をマッチングする、橋渡しをすることでプラットフォームをつくるという、実証実験を実施しておりまして、その実験が可能かどうかというのを検討してまいります。

○おだ幸子委員

5個、質問させていただきましたが、現状といたしましては、飼料価格の高騰分を販売価格に転嫁することは難しいと。それから、国の畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備推進会議で生産コストを適正に反映することが可能な仕組みづくりを検討しているということで、ここに関して、県としても引き続き注視をしていただいて、対策を検討していただきたいと思っております。

また、やはりエコフィードに関していろいろ御検討いただいて、問題点もある中、そこをどう解決していくか、取り組んでいただいていることもよく分かりました。

やはり畜産農家様の経営の体質強化のために、資源循環の一環といたしまして、エコフィードの活動をこれからも推進していただきたいと思っております。

私からの質問と要望は以上でございます。ありがとうございます。